

## 5. 漁業や関連業界にとっての問題点や解決すべき課題についてお考えを聞かせてください

(原文のまま)

- ・魚価が低迷する時と資源状態が悪い時が重なった時に獲るのを我慢することは必要。
- ・6次産業化を考える時に、費用対効果について経営の勉強が必要。
- 漁師の片手間では失敗する。
- ・制度的、構造的な問題の解決なしに根本的な打開策は見えてないと感じました。
- ・近い将来、消費者は魚の丸ごとの姿を知らなくなるだろう。
- 旬の本当の美味しさも、自分では知ることなくなる。
- その時に、魚は食材としての魅力は残されるのだろうか？
- ・皆がやみくもに努力をしていると感じる。直感の一步先を目指すべき。
- ・漁業の世界のロジック、感覚が農業と違い、独特であることは承知しているが、農業を見習えという言い方は乱暴にしても、一般市民の感覚や目線を見ようとせず、自らのロジック、世界観の中のみで解決しようとしている。例えば、本日は「消費者」がキーワードとなっていたが、マーケティングの王道として、顧客のターゲットの絞り込みというところまで一歩踏み込んだ勉強にして貰いたい。
- ・漁業界における問題は、小底と共通。
- ・漁業者がどう売るかという点は理解できるが、漁業者が高齢化してその取り組みに加わることが出来ない。
- ・市場への新規参入を認めるべし。
- 既存の市場を見学会のとき、時々訪れているが、最も面白いのは牛肉の芝浦と青物だった。
- 大型動物の流通。
- ・魚価向上対策が重要だと思います。そのための手法は色々あると思いますので、考えていただければと思います。加工の高度化は、進むと思います。その中で消費者が払う金額に対する漁業者の利益の割合をもっと上げるべきだと思います。
- ・デフレ。
- ・全ての業界において、あのような震災を経験したにも拘わらず、危機管理の意識が希薄だった(例: 原発と真夏の計画停電の関係)。
- ・安易かも知れないが……農業で言うところのエコファーマー(環境保全型漁業)の様な取り組みを消費者にも伝えるようにしてはどうでしょう? また、FB, SNS等の活用、農業の葉っぱビジネスのように、携帯端末を活用した販路の開発などはいかがでしょう(もう取り組んでいるかも知れませんが)……。私もtwitter漁師さんから魚を直接購入しています。海の様子を日々知りながら、食べる魚は格別です。地域によって色々な魚種があることなど、魚の世界の楽しさを、美味しさを私たち消費者に伝えて欲しいと思います。切り身には、丸(姿)の写真をはり付けて売ったらどうでしょう…(あくまでこの品種ですという例として)。
- 食べられる魚の生きてる動画(とび魚など)は子供が喜びました。賛否あると思うけど。消費者とつながることが大切かと…誰に食べさせたいのか…うーん書ききれませんが…魅力が伝わってないっ!
- ・一次産業に興味があり、益々活発になって欲しい。農業、漁業、林業も同様です。
- ・魚価の向上の為に、魚の品質向上に益々、努めてもらいたい。
- ・混獲された魚の利用、Discardingの防止、そして消費者の意識改革、「常にこの魚が市場に並ぶ」というわけではなく、旬の魚を食べることが必要であると考えます。
- ・安定な収入で安心して若い人達が、漁業を職業として受け入れて貰えるような位置づけにすること。
- ・大中まき網の操業、VMSの運用の厳格化。
- ・漁業者と消費者との接点が重要。
- ・関係者の行動力、実行力、チャレンジ精神が必要。
- ・一歩も二歩も踏み込んで、掘り下げた工夫、努力が必要(ありきたりのことをやるだけではダメ)。取組の継続性が必要。
- ・様々な問題を抱えている水産業界は、漁師の意識改革が必要。
- ・儲かる漁業を妨げる要因が、複数重なる今の世の中が問題。
- ・この分野は漁業の科学化が遅れていると感じます。国策での対応が必要。
- ・県の漁業センターが、沿岸漁業振興のために、新規資源調査を行う考えは、非常によいと感じた。
- ・高齢化対応の為に技術開発が必要。
- ・マグロやウナギばかりに目が向いている零細の漁業者にももっと目を向けるべき。
- その意味でも本シンポは重要。
- ・小底の非利用(安いので捨っていない等)資源の収入化。
- ・漁業者と仲買い・販売者との距離間。

- ・漁業は「産業」であるのに、利益に関する取組(研究)が少ない。
  - ・今回のような取組、考え方が広がることは、間違いなく有意義だと思います。
  - ・何故利益が出ないのか、お互い共有問題として考えて行かなくてはいけないと思う。
  - ・情報の共有化等、広く進めて行くべき。
  - ・漁業者と消費者との距離を近づけるか。
  - ・回転寿司。魚の美味しさを知らずに大人になっている。
  - ・漁業者の新規参入を阻んでいる。
  - ・業界が、たかり体質。
  - ・漁船を持って償却出来ない。漁獲量減少。オイル高騰について、もっと考察してはどうか。
  - ・美味しい魚の食べ方を小学生に知らせること。例えば、塩焼など刺身ばかりではない食べ方。
  - ・農業と比較して「産直」の取り組みが遅れている。
  - ・人材育成。
  - ・魚価の低迷。
  - ・大手消費に大きな問題があるが、地方の地先にも問題があると感じた。
  - ・この先、考えてゆきたいと思っています。大変興味深かったです。
  - ・研究、行政→試験・研究結果を迅速に浜に伝える(研究のための研究ではダメ)。
- 現場の漁業者に向けた情報発信が大事。
- ・流通→商売のヒントはなかなか話せないだろうが、獲る人間やそれを支える人間にどんどん発破を掛けて欲しい。連携しにくいと思うが、行政、研究にも意見を投げかけて欲しい。
  - ・漁業者→やる気ない、元気ない浜をどうしていくか？魚安い、燃油高いのグチだけで行動を起こさない。もっと辛口でも良いのでアピールして。みんなに漁業を知って貰う努力をして欲しい。
  - ・高齢化、後継者不足がやはり深刻。儲かる、儲からないの問題もあるが、漁業の「負の既成概念」が問題。儲からない業界だと思いません(不景気は漁業だけではない)。(漁師を含めた)社会全体に漁業は斜陽産業だという気運がある)。

